環境パートナーシップちば だより
―つながれ ひろがれ―

Vol.８５
編　集　環境パートナーシップちば
代　表　桑波田　和子
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団業務部
環境活動支援課
電　話　043－246-2180
ＦＡＸ　043－246-6969

平成２４年度（第１６回）定期総会を開催

４月２２日（日）午後３時から４時３０分まで、松戸市のレストラン「オーガニックカムー」において来賓として千葉県環境生活部環境政策課・櫛引宣子課長をお迎えし、会員２２名の出席を得て開催されました。なお、当会の現在の会員数は、個人会員１０１名と団体会員３２団体です。

第一部総会（午後３時～４時）

議長に山田多恵子、書記に斎藤清の両氏を選出し開催、事業報告・計画は牧内氏が説明しました。

各項目の要点は以下のとおりです。議事はすべて全員一致で承認されました。

事業報告：情報活動では、「環境パートナーシップ」のホームページをリニューアルし、「環境ひろば千葉」を構築、環パだよりは６回発行。主体的活動は県から「平成２３年度環境学習指導者養成関連講座実施業務」を受託し各種講座を実施。ネットワーク活動はおおむね計画通り行われました。

会計報告：収入は、会費、千葉市エコ体験スクール、マップ売上、LOVE OUR BAY募金等です。支出は、新規の「環境学習指導者養成関連講座」で一時借入処理としました。他は印旛沼水体験、ＥＳＤフォーラム等の経費です。会計監査は大西優子氏から適正との報告がありました。

事業計画：情報活動として前年度開設した「環境ひろば千葉」を更に普及させる。主体的活動は環境学習活動をより活発にするため、会員有志による環境学習プロジェクトを設置し県の環境講座、公民館講座等に積極的に取り組む。エコメッセちばプロジェクトを立ち上げ、エコメッセちばの企画運営を支援する。印旛沼関係は花見川で外来種の「ナガエツルノゲイトウ」を千葉市環境保全課と連携調査をする。ＮＰＯ支援の一環として、情報技術を学ぶ会（ネット活用サロン）を開催する。環境パートナーシップ・エコサロンでは安全な食品、防災、放射能、再生エネルギー等６回開催予定。企業とＮＰＯによるパートナーシップ事業は(有)ナチュラルシードネットワークと環パちばが協働で「ナチュラルシード研究会」を秋ごろ開催する。ネットワーク活動では６件のパートナーシップ事業へ参加予定。当会を維持発展させてゆくために、地域環境活動として千葉市、船橋市、浦安市、松戸市において活動をしていく。

予算：収入は、会員会費と23年度受託した、千葉県環境学習指導者養成関連講座、千葉市エコ体験スクールの入金額となります。

以上平成２３年度事業報告、会計報告、会計監査報告は承認され、平成２４年度事業計画、予算、役員改選、等の順に審議され、すべて承認されました。

役員改正：桑波田和子新代表から新役員の紹介が行われ総会を閉じました。

第二部　エコサロン（午後４時～５時３０分）

総会後、「「自然環境 いこーる 体内循環」をテーマに会場店長である伊藤氏がパワーポイントを使って話題提供され、出席者２１名による意見交換も行われました。

（文責　斎藤）

「リオ+20」国連持続可能な開発会議（UNCSD）と私たちの活動

代表　桑波田　和子

本日は雨の中、２４年総会にご出席いただきありがとうございます。また、千葉県環境政策課長の櫛引宣子様にはご臨席いただきありがとうございます。

今年は、松戸市日暮のオーガニックカムー様のご厚意で、会場をお借りして開催いたしました。松戸市周辺には長年当会の会員として活躍されてきた方が多くおられます。午前中は、当会の会員の「関さんの森」を見学させていただき、今までの活動や現在の状況などお聞きいたしました。

23年度は、平成23年３月11日に起きた「東日本大震災」や「放射能」と未解決の課題が多くありますが、環境保全活動とパートナーシップの推進を基本としている当会として、今までの活動をより一層活発に進めていくことを念頭に置きました。事業報告などは総会にいたしますが、特に千葉県環境学習指導者養成講座を受託し、講座を開催しました。地域で既に活動されている方やこれから何かしたいと思っている方を通して、今後益々「環境保全」「環境と経済」「持続可能な社会(ESD)」の視点を重視して24年度は歩みたいと思いました。

各地でご活躍の当会会員の活動を知り、お互いが支援・協力し、私たちが住んでいる地域、県、地球環境へと環境への取り組みが「つながり広がる」ことを強めていきたいと願います。そこには、市民・企業・行政とのパートナーシップの推進は必須です。

６月には「リオ+２０サミット」が開催されます。どのような事が決議されるか関心を持ち、今後の活動に取り組んでいきたいと思います。

24年度も、会員皆さまのご支援とご協力を是非よろしくお願いいたします。

環境パートナーシップちば総会挨拶

千葉県環境生活部環境背政策課
課長 櫛引 宣子

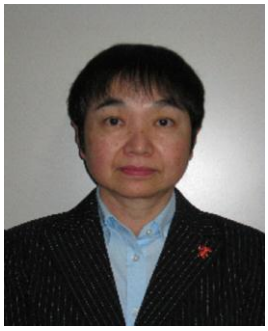
御紹介いただきました県環境政策課長の櫛引と申します。「環境パートナーシップちば」の総会にお招きいただき、ありがとうございます。

「環境パートナーシップちば」は、地域の環境保全活動から環境学習、地球温暖化防止、資源循環型社会づくりなど、幅広い活動を長年実践され、本県の環境行政の推進に多大な御協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

昨年度は、「環境学習指導者養成講座」の開催業務を受託いただいたところですが、日ごろの活動から得られた貴重な経験を講座に活かされた結果、参加者の満足度も非常に高かったとお聞きしています。

また、平成２２年度から桑波田代表に実行委員長をお務めいただいている「エコメッセ」については、近年、参加者も１万人を数え、本県の初秋を代表する行事に成長されているようですが、特に昨年は、東日本大震災を踏まえ、被災地の方々への支援や震災後におけるライフスタイルを考えることを主眼においた大変意義深い行事であったとお聞きしています。

東日本大震災後１年余りが経過した現在も、放射能・廃棄物・エネルギーなど、様々な課題が山積しており、県においても対応を進めておりますが、その解決に当たっては、県民・企業など各方面の御理解と様々な主体間の連携・協働が不可欠です。



今年は、１９９２年の地球サミット以降の、持続可能な開発に関する主要サミットの成果や取組状況、新たな課題などについて議論する「国連持続可能な開発会議（リオ＋２０）」が開催され、また、国においては、新たなエネルギー政策や温暖化対策などが打ち出されてくる、まさに時代の転換点となる年になると思います。

このような中、地域社会において「多様な主体をつなぎ、パートナーシップによる環境づくりを目指す」皆様の活動に大いに期待しておりますので、今後とも御理解と御協力をお願いいたします。終わりに、「環境パートナーシップちば」のさらなる御発展と、会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

環境学習に取り組んでみませんか
－プロジェクトチーム結成のご案内－

既にご承知のように、昨年度私たちは千葉県から受託して「平成 23 年度環境学習指導者養成講座等委託事業に応募して、講座の企画・運営を行いました。その様子については「だより」８１～83 号でご報告しているとおりです。

環パちばとしてはこれまでにも公民館の環境講座の講師をしたり、学校に出前授業を行ったりしていますが、昨年度の養成講座は全部で３種類・14 日間の講座について、企画・広報・実施・報告まですべて行う、とても大がかりのものでした。

環パちばではこの経験をさらに発展させ、「環境学習」を活動の柱の一つとして取り上げることになりました。昨年度は会員の中の有志を募って、受託事業に取り組みましたが、今年度はもう少し正式な形でプロジェクトチームを結成し、より充実した活動を目指します。

このプロジェクトチームに参加していただくと、環パの団体に依頼される環境講座などに、講師・スタッフとして派遣、受託事業等の企画・コーディネート、のほか、環境学習プログラムづくりなどの勉強会も行う予定です。もちろん、個別の活動も今まで通りおやりいただいて構いません。

お申込み・お問合せは、小倉までメールでお願いいたします。（VYL11027@nifty.com）ぜひプロジェクトチームの仲間になってください！

（小倉久子）

「エコメッセちばプロジェクト」にご参加ください！

総会でご提案して承認が得られた「エコメッセちばプロジェクト」についてご説明させていただきます。

1996 年から始まった「エコメッセちば」も今年で 17 回目を迎え、９月 17 日（月・祝）に幕張メッセの国際会議場２階のフロアと１階玄関前を使い「エコメッセ２０１２in ちば」として開催されます。

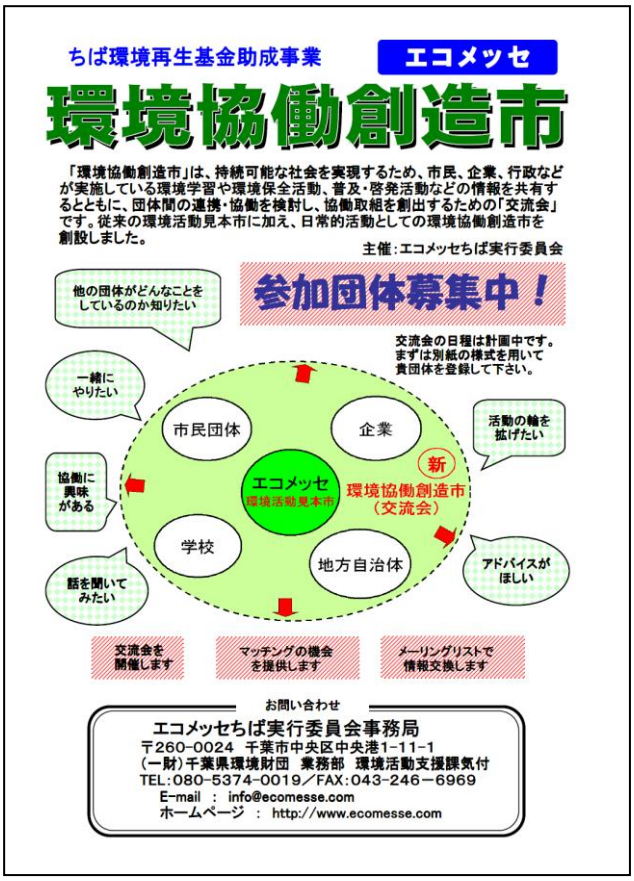
2012 年は、「つながれ　ひろがれ　エコメッセ」のテーマの下に「ちば最大の環境活動見本市」として、2011 年来場者 12,000 人を超す目標を持って、既に多くの環パ会員が実行委員として実施に向け活動しています。

今年は，今まで交流の場であった「エコメッセ in ちば」を、さらにもう一歩踏み出して、協働のきっかけとしてもらうための仕組みを、「環境協働創造市（いち）」として実施することになりました。

この環境協働創造市は、団体間の連携・協働を検討し、協働取組を創出するための「交流会」を設け、一日のイベントに終わらない日常的活動として取り組むものです。

以上のような「ちば最大の環境活動見本市」と「環境協働創造市」を実施する実行委員会を支える方法の一つとして、当会でエコメッセちば実行委員会の事務局を引き受けることになりました。事務局活動と実行委員の活動を大きな力として実施していけるように、「エコメッセちばプロジェクト」に一人でも多くの会員の支援をお願いいたします。会員の中でご参加をいただける方がありましたら、横山までご連絡ください。お待ちしています！

email：k-yoko@pop21.odn.ne.jp



（横山清美）

第５２回エコサロン　「体内環境　＝　自然環境」
ー食を巡る環境を見つめれば自然環境は良くなるー

株式会社　アイ･ティー･オー　伊藤 照夫

●自然環境を良くするためには、体内環境に注目！

有機農業による農産物が人の健康を守るために安全なものであると言う認識は、徐々に高まり、食の安全に目を向けた健康的な体づくり、つまり“体内環境”の保全に役立っている。この認識から有機農産物を生産する農地が増えれば、自然環境も保全されることになる。農薬や化学肥料によって畑や水田の土や水に棲むバクテリアや微生物、小動物などが破壊されなければ、自然界の食物連鎖の底辺をなす生物相が保全されることから、農地周辺の自然環境の質が高まり、生物の多様性が守られる。

環境保全を志す人々こそ、身近に出来る有機農産物を食材として利用して体内環境の保全を心掛け、自然環境を守って頂きたい。体内環境＝自然環境の関係に注目を。

●環境世代の継承に期待！

約半世紀前、私が小学生であった頃、家の周りの農家では、農薬や化学肥料が使われ始めていた。これに対して、祖父母は、人の体に危ないと言って一切使用しなかった。元々の自然農法の維持を貫いていた。今で言う有機農業である。農薬・化学肥料を使用した農家の収量に比べて、劣っていたが、お米などの味はよいと評価され、自らも美味しいと感じた記憶がある。

こんなことがルーツとなって、オーガニックレストランを始め、過去の記憶を辿りながら店で提供する食材づくりのために、自分で自然農法も始めることとなった。これは、息子達と一緒にはじめたことであることから、祖父母の代から数えると４代まで自然農法が継承されたことになる。孫まで繋げば５代。自然を守る環境世代が繋がることに期待したい。

今日も、妻と畑仕事に行こうかな…。

第５２回エコサロン
「体内環境　いこ～る　自然環境」参加記

平成２４年度総会後のエコサロンは、予定ではオーガニックカムー店のオーナー伊藤氏のお話から始まるところ、まずは次々と出てくるおいしそうなオーガニック料理に専念しました。ここでしか飲めないオーガニックドラフトビールも堪能した後、有機農業と食の安全について学びました。

まず、日本の 1ha 当りの農薬使用量が世界一で、有機農業を営む農地面積の比率が欧州諸国と比べはるかに少ないことをデータで紹介されました。残留農薬は基準があり、散布から日数が経過すれば濃度は大きく下がりますが、決してゼロにはならず、微量でもその影響でアレルギー体質の人が増えたり、土中微生物などの生息環境が破壊されているとお考えです。有機 JAS の規定で使ってよいとされる農薬が必ずしも安全というわけではない・・・

そんな日本農業の中にあって、有機農業が目指すものは、地域の環境保全により、安全で質の良い食べ物を生産し、生産者と消費者の連携を大事にすることなどとされています。そのことは、すごい事例紹介により実感できました。岩手県中洞牧場の乳牛は自然放牧で、オーガニックの餌と運動により長寿で、おいしい牛乳を提供してくれます。伊藤氏自身、千葉の CAMOO 菜園と田んぼで自然農法を実践され、このお店の食材を自給し、残さを肥料にする循環の取組みをされています。

このようなお店が各地に広まり、生消連携のネットワークをつくることが、農業を望ましい方向に導くのではないかと感じました。

（平田　耕）

ナガエツルノゲイトウ調査報告

県民交流・文化課による「平成 23 年度市町村と NPO との連携促進事業」として、千葉市と環境パートナーシップちばが連携して当調査を行うことになり、４月１２日に現地確認調査を行いました。

ナガエツルノゲイトウは南米原産の大変繁殖力の強い特定外来植物で、平成 18 年ごろから印旛沼で繁茂し始め、沼の在来種を脅かすことはもとより周辺農耕地にまで侵入するなどの被害を発生させ、更に近年は印旛沼に流入する河川にまで遡って繁茂を続けています。

幸い、花見川では、新川を経由して浮遊してきたナガエツルノゲイトウの群落の一部が、大和田機場の除塵機で捕捉処分されている効果のためか、新川に比べ繁茂が進んでいないようです。しかし、これまでの印旛沼や流入河川での進行状況を見ると楽観は許されない状況と思われます。

このため今回はまず、今後の対策を検討するための実態調査を行うこととしました。

快晴で満開の桜が美しい中、１４名（千葉市３名、花見川の環境を守る会１名、その他市民団体２名、環パ８名）で調査を行いました。

調査区間は、花島橋（河口から 8.4ｋｍ）から上流に向かい弁天橋（河口から 11.5km）までの約 3km 区間について、水辺に近いサイクリングロード上からの望見により群落分布を確認することにしました。

今回はナガエツルノゲイトウの新芽が出始めたころで、群落かゴミの塊かの判別が十分にできない難点がありましたが、それでもおおよその分布状態が推測できました。

特に群落の形成が進んでいる場所は弁天橋の直上流の右岸で、目視によると、おおよそ 200mの区間で群落が発達している状況が確認できました。このことから、群落形成は、印旛沼を起点に下流に向かって進んでいるという普通の解釈が成り立つのではないかと推測されました。

今後は、夏～秋季に新川も含めて水上から群落分布を確認し、除去対策を検討する必要があり、このため多人数の動員ができるような組織や体制を構築する必要があると感じました。

（牧内）

枝が発達したナガエツルノゲイトウ
枝の太さは、太い部分で５mm程度はある

弁天橋直上流右岸の岸辺に発達した群落

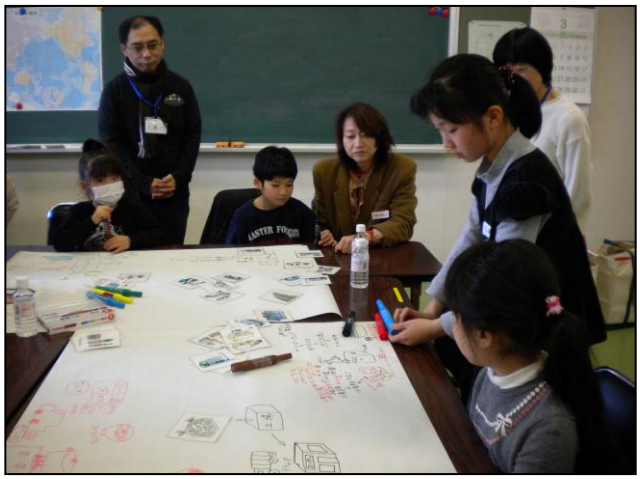
「もてるかな？エネルギーのかばん」

小学生対象　松ヶ丘公民館で

３月 25 日（日）１０時～１２時、松ヶ丘公民館にて「もてるかな?エネルギーのかばん」を、小学生を対象に、公民館講座として行いました。

当日は春休み初めての週末ということもあり、参加者が集まりにくい状況でしたが、公民館の方々、関係者の方々の当日までお声がけいただき、小学生６人（幼稚園生１人を含む）、保護者３人が参加してくれました。

プログラムは、はじめに「ミドリちゃんのたび」をパワーポイントで電脳紙芝居上演。地球温暖化ってなに？その原因は？海面の膨張はなぜおこる？ということを、小学生にもわかる解説（かつ正確！）を付け加えました。参加者もスタッフも



なるほどと納得できるものでした。

次は「もてるかな？エネルギーのかばん」を行いました。かばんの重さ＝一次エネルギーの石油換算を人口ひとりあたりにしたもの、を日本、アメリカ、中国の３か国分つくり、参加者一人ひとりに持ってもらうことで、体感してもらいました。数字の大きさだけではわかったつもりになっても、実際持ち上げてみる、という動作を伴うとより実感がわきました。やはり体を動かすことが楽しかったのか、何度も持ってみて重さを確かめる子もいました。

参加者全員が実感したところで、１人あたり１日 10 キロ（!）のエネルギー（石油換算）をどんなことに使っているのか、考えてみよう、と用意した模造紙２枚に、参加者が全員で食べてきた朝食から発想を広げて、料理につかったエネルギー、買い物など食材が家に来るまでのエネルギー、食べた後のエネルギーなどを絵にして書き出しました。

最後にひとりひとり、書き出した（使われたエネルギー）をどのようにエコしていくか、わたしのエコ宣言をまとめ、発表して終わりました。

私にとっては、小学生を対象にした環境講座デビュー(！)でしたので、小学生の動きについていくのがやっとで、他のスタッフの方々の邪魔になっていたかと思いますが、とても楽しい時間でした。また参加させていただきたいです。

（文責　松橋）

第９回里山シンポジウム in 市原　里山に託す私たちの未来
テーマ　「里山の魅・力発見」

里山シンポジウム実行委員　桑波田 和子

全体会：５月 27 日（日）　10：00～１６：１０
会場：東海大学付属望洋高等学校　松前記念講堂
参加者：３10 名
主催：里山シンポジウム実行委員会
　　NPO 法人ちば里山センター　千葉県
共催：市原市　　協力：東海大学付属望洋高等学校
　　千葉県緑化推進委員会
後援：小湊鉄道株式会社

今年の里山シンポジウムは、「里山の魅・力発見」～中房総の底ヂカラ～をテーマに掲げました。その中房総の魅了と底力を発見するために、桜、菜の花が咲く小湊鉄道沿線を主として「中房総の小さな旅」（6 コース）も開催しました。各コース平均して 50 名以上の参加者で中房総の春を満喫し、文化・歴史、自然、食、景観、地域の人の力強さ等新たな魅力を発見することができました。

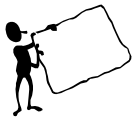
５月 27 日の全体会では、その小さな旅の報告を午前中に聞き、午後から北川フラム氏の基調講演、パネルディスカッションがありました。「里山の美しさは、人がそこで暮らし、人の手が加わることによって支えられてきました」「できる人が、出来るときに、出来るだけのことをしようを活動のモットーとして、里山再生によって美しい千葉、すてきな地域づくりの輪を広げましょう」との金親実行委員長の挨拶は印象に残りました。基調講演講師の北川フラム氏は、市原市が平成 25 年「アートフェスティバル」を開催し、観光にも力を入れていく事業を展開していますがその講師としても、大きく関わる方です。北川氏が「マイナス資源をプラスの資源に変えなければいけない」「あるものを活かして新しい価値を生もうという気持ちが根底にある」等、新しい視点を私たちも見つけていきたいものと思いました。

パネルディスカッションでは、ご高齢と思えない風貌と発言の遠山あき氏の「科学文明が発達して、人間は不器用になった」「21 世紀は水不足の世紀です」。林秀一氏の里山保全活動へのきっかけや活動を継続していることで良い波及効果が生まれてきたこと等のお話をお聞きし、佐久間市原市長も市原市での里山の取り組みについて熱く語られました。

今後の市原市の里山への動きなど期待したいものです。

（小湊鉄道　飯給駅前の里山風景）

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　10　―
おききしました！　この人・この団体
関さんの森 訪問記



萩原　耕作

折り畳み傘をショルダーバッグに詰め込んでJR成田発快速電車に飛び乗ったが目覚めたら錦糸町駅。昨夜の夜更しがあだとなり座席に着くなり熟睡に陥った。

新松戸駅には既に会のメンバーの姿なし。駅前交番で「関さんの森」を尋ねたら、なんと即座に１枚の案内地図を手渡され手際良さに疑問と驚きを抱いた。私はこの森について全く知識がなく【多分地元農家の方が市民に山林を開放しているのだろう】程度の想像をしていた。

降り出した雨の中、ぬれた地図を頼りに線路沿いをたどり、街道に出たら際だった森が視界に入った。更に歩を進めると威厳のある屋敷門がただずむ、正面脇にあるくぐり戸を静かに押してみたら簡単に開き、雨傘を絞め腰をかがめて中に入った。

200 年の歴史を感じる屋敷内は大きな樹木とかれんな下草が繁茂している、更に奥の方角を眺めたら先着した「環パ」一団の姿が目に入った。１時間遅れの合流というお粗末。

100 年桜は門の脇にそびえて既に葉桜、根元近に胴吹きした小枝の先には数輪の開花が見られた。熊野権現の塚には樹齢 200 年のキリシマツツジが鎮座して開花はもう少し先。近くには関東蒲公英（カントウタンポポ）が一輪咲いていた。

門をくぐり出て屋敷の外に出た、目の前にカーブをした道路工事が進められ、その向こうには立引きにより移植されたケンポナシの大木が目に入った。この経緯の説明を受けながら住宅街を通り抜け屋敷林にたどり着く。起伏の変化に富んだ森は「こどもの森」として開放利用されているとのこと。

かつては植樹された老杉と椎や榎が混在した森は自然林への遷移過程が見てとれる。木陰の傾斜面は下草も絶え、裸の地肌に枯枝を敷き積め土砂の流失防止と雑草着生の工夫が施され今後の成果が楽しみ。

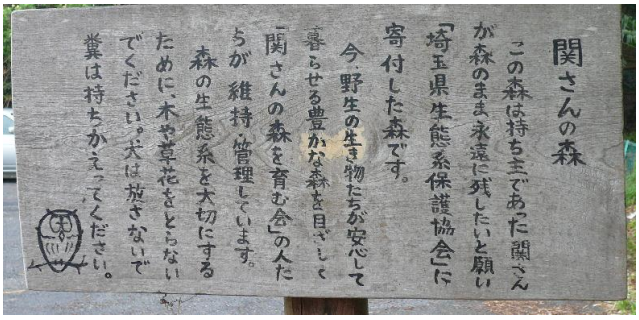
低地の木道を渡ると竹林の一画が現れる、森はボランテイアの学生が定期的に手入れ管理しているとのこと。縦横無尽に倒れた竹を除伐できたらきっと静寂な景観がよみがえるだろうと自分の里山活動に照準して勝手に想像をめぐらした。住宅が直ぐに迫っているためか、枯れた鉢植えの不法投棄が気になった。

湧水池は、柵をめぐらせ縁止めのくいにはコケが付着して「侘び」の風情が感じられる。水生動物の姿は見られなかったが、ザリガニは沢山生息して子供たちがこれを捕獲する「楽しみの場」になっていると説明を受ける。

お昼は会員から「おすそわけ」を授かり空腹を満たした後、皆と関さんの講話を拝聴。話の過程で、冒頭に記した交番と案内地図の疑問がようやく解けたのだった。

それは、以下のごとく、屋敷林を埼玉生態系保護協会への寄付に始まり、「関さんの森を育む会」が発足して地域の自然を守る活動へと発展、緑地環境管理トラスト活動のモデル先駆例となったこと、更に関さんの森エコミュージアムの公共性と都市計画道路の公共性が共存した計画道路変更に至った背景には、市民や環境団体も巻き込んだ対話運動で難問解決の糸口を見出したというプロセスがあって多くのマスコミから取り上げられ、言わば全国銘柄へと発展したのだ、以上の経緯から推測すれば、交番の案内地図配布は至極当然。

関さんの環境保護と自然教育に捧げた情熱に感激し、明日から再び老骨に鞭を打って里山活動取組みに意欲が湧いた一日だった。



運営委員会報告

４月運営委員会
日時　４月９日（月）
場所　船橋市民活動センター
【報告】
・だより８４号 印刷・発送
【協議】
・花見川ナガエツルノゲイトウ調査
・千葉市公民館講座プログラム
・エコフェアいちはら出展
・総会準備

５月運営委員会
日時　５月１０日（木）
場所　船橋市民活動センター
【報告】
・２４年度総会終了
・エコフェアいちはら（６月１６日）
・エコメッセちば出展募集開始
・まるグル(6/9.10)参加（エコメッセ協働創造市）
【協議】
・２４年度事業についての確認
広報部：だより、ホームページ及び環境ひろばちば
事業部：環境学習指導者養成プロジェクト、印旛沼をきれいにする活動、NPOを支援するネット活用サロン、エコサロン、エコメッセちばプロジェクト、企業とNPOによるパートナーシップ事業、ESDに関する活動
事務局：24年度方針の進行管理、会費納入状況

お知らせ

第５３回エコサロン（特別講演会）のお知らせ

「放射能」とつきあうー私たちは，これからどう考えて生きていったらよいのだろうー（仮題）
日時　２０１２年７月１０日（火）　１８時～２０時
会場　きぼーる（千葉市中央区）１３階
講師　千葉大学　近藤昭彦教授
参加費（資料代）　５００円

近藤先生は，ご専門の水文学の視点から原発事故による放射能汚染の実態を、東北～千葉県を細かく調査していらっしゃいます。その結果をお聞きするとともに，調査をする中で先生がお考えになったことも話していただきます。

お話の後で、先生との意見交換の時間も撮りたいと考えております。ぜひご参加ください。

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団　業務部
環境活動支援課
TEL：043-246-2180　ＦＡＸ　043－246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書
会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円		